ゼニゴケ

庭のすみなどでは、図１のようなゼニゴケが見られます。ゼニゴケはとても増えやすく、庭一面に生えることさえあります。このコケの体の特徴とよく増えるわけを紹介しましょう。

「銭」から名づけられたゼニゴケ

ゼニゴケの体は草や木のような根や葉や茎の区別がなく、地面にはりついたように生え、ふたまたに分かれながら生長します。ゼニゴケの特徴は、体の先の方にある小さなさかずきのような部分です。ゼニゴケの名前は、このさかずきの部分が銭（硬貨）のように丸いことから名づけられました。

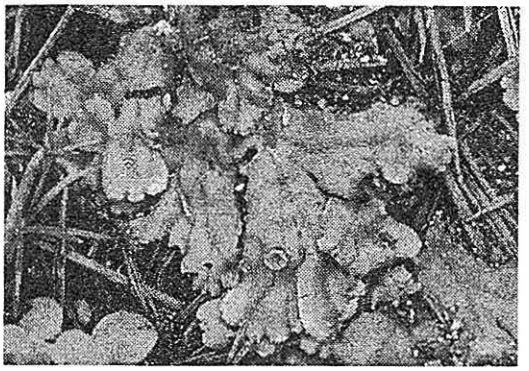
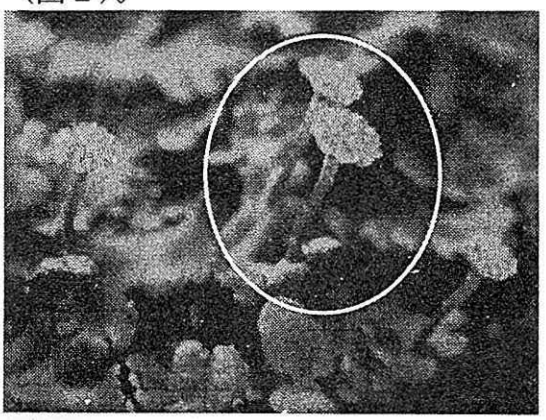


図１．ゼニゴケの体

増え方その１ー卵と精子で、胞子がつくられるー

ゼニゴケの増え方の一つに、胞子（種子植物の種子にあたる）で増える方法があります。春、または秋、葉の表にカサのような形のものができます（図２）。



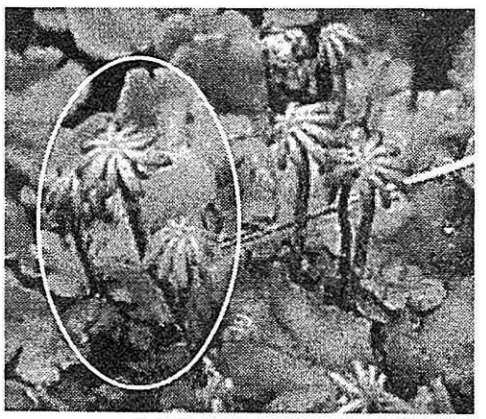


図２.お株とめ株

（左がお株、右がめ株。カサ状の部分の形がちがいます）

ゼニゴケにはお株とめ株があり、てっぺんのカサのような部分で、お株では精子、め株では卵がつくられています。精子が、め株のカサの中にある卵に入ると、胞子がつくられます。粉のような胞子は、風にのって運ばれ、落ちた所で生長して新しいゼニゴケになります。

ただし、このように卵と精子から胞子がつくられて増えるには、条件があります。お株の精子は、め株の卵まで、雨などの水滴(すいてき)の中を泳いでいきます。そのため、お株とめ株のカサの距離(きょり)はある程度、短くなければなりません。

しかし、野外ではお株とめ株が一緒に混じって生えている所は少なく、ほとんどのめ株では胞子はつくられません。では、どのようにして増えるのでしょうか？

増え方その２―分身の術―

ゼニゴケは胞子以外の方法で増えるしくみを、さかずき状の部分にもっています。さかずきの中を観察すると、直径 0.5mm くらいのつぶがいっぱい入っています（図３）。物語「西遊記」の孫悟空は、引きぬいた自分の毛から分身を生みだします。それとよく似て、このつぶはゼニゴケの分身（クローンという）にあたります。雨が降り、さかずきに水滴があたってあふれると、つぶは水といっしょに流され、落ちた地面で育ちます。このようにしてゼニゴケはクローンでどんどん増えることができます。（坂井奈緒子）



図 3.さかずき状の部分の拡大

富山市科学文化センター
〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764-91-2123)
ホームページ http://www.tsm.toyama.toyama.jp

平成 10 年 10 月 1 日